

監修のことば

臨床医が刺激的な職業である理由の1つは、それがキャリアを通じての勉強と知識のアップデートを要求されることである。それは医学生の間は教科書を読むだけで十分であった。しかしレジデントになると勝手に違ってくる。知識をアップデートするために、目の前の患者さんに最良の医療を提供するために、研究論文を読むことが必要になる。他にも、そもそも抄読会など研究論文を（嫌でも）読む機会が舞い込んでくる。私がレジデントだったときも、同僚の米国人レジデントが抄読会で軽妙に発表しているのに茫然としたのを記憶している（その当時は彼らが論文を読み込んでいると誤解していただけだったが）。どんな動機であれ、研究論文を体系的に読むことは臨床医のキャリアを通じて重要なスキルとなる。その有効な処方箋が、この『僕らはまだ、臨床研究論文の本当の読み方を知らない。：論文をどう読んでどう考えるか』だ。

後藤匡啓先生はアカデミアだけでなく医療ベンチャーの世界でも活躍されている若手救急医・研究者である。本書は若手医師を目の前にしてカジュアルに説明するようなスタイルで描かれており、わかりやすく読みやすい。それでいて、研究論文を読み込むにあたって必要な論文の構造の理解・体系的な読み方のコツが見事に整理されていて、指導医レベルの先生方にも刺激を与える書籍である。私自身も監修をしてとても勉強になった。

後藤先生は日本各地の研修施設で幅広く救急医療を研修した後、ハーバード公衆衛生大学院で疫学・医療統計を学んだ。同時に私が運営するマサチューセッツ総合病院のラボで3年間、実地の臨床研究を研修した。後藤先生は、経験不足であった私のフェロー第1期生であったため良くも悪くも過剰に期待・指導され、いろいろ苦労があったのではと反省している。しかし彼と仕事をした3年間から私自身が多くを学び、さらに本書監修を通してかつてのメンティーからさらなる教えを受けた。メンターおよび同志としてこれほどの喜びはない。

最後に、本書を手にする若手医師が研究論文を読み込むことにとどまらず、臨床研究に興味をもちその刺激的な探究に一步踏み出してくれればと願い、監修のことばとしたい。

2021年3月

マサチューセッツ総合病院
ハーバード大学医学部
長谷川耕平